北 海 道 浮 魚 ニ ュ ー ス

令和 3（2021）年度 4 号
2021 年 5 月 28 日
道総研　水産研究本部　函館水産試験場
ホームページ：http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html

◎日本海スルメイカ北上期調査結果

5 月 18 日～25 日の期間、津軽海峡周辺から秋田県沖にかけての日本海で、函館水産試験場調査船金星丸（151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- スルメイカの分布は非常に低密度で、全漁獲調査点の平均 CPUE は昨年および過去 5 年平均を下回った。
- 体サイズは昨年および過去 5 年平均より小さかった。

1. 水温分布（図 1）

漁獲調査点 5 地点の表面水温は 13.9～15.2℃（昨年は 11.5～13.7° C）、深度 50m の水温は 10.1～11.8℃（昨年は 8.8~11.4° C）の範囲にありました。

スルメイカの分布の目安となる深度 50 m で 10° C 以上の水温帯は、東経 138° 30’線付近から沿岸側に広がり、調査海域の北西側では水温が 4° C 台まで低くなっていました。また、津軽海峡周辺の 50m深は昨年と同様に暖かく、10℃以上の水温帯が北に広がっていました。

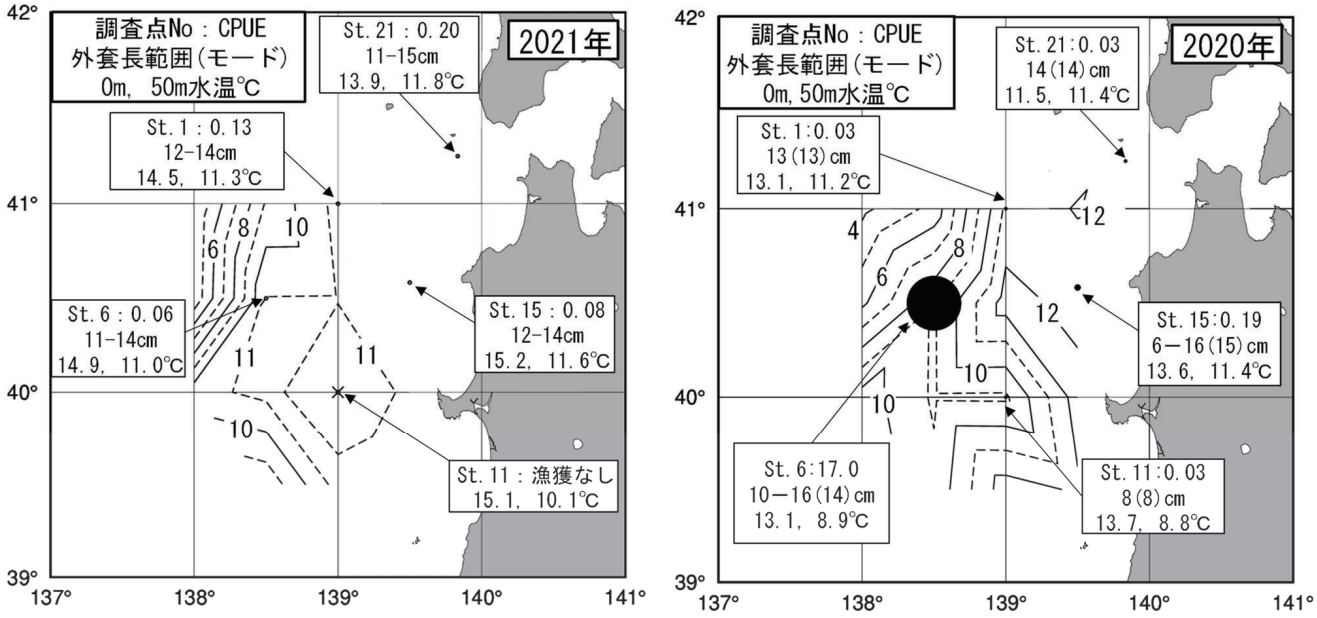

図1　スルメイカ漁獲調査結果と深度50mの等温線図（左：2021年、右：2020年）
矢印の先は漁獲調査点で●の大きさはCPUEに比例。×は漁獲なし。

2. 流向流速分布

航行中の ADCP 観測により得られた深度 50m における航路上の流向流速を図 2 に示します。水温分布と照らし合わせると、対馬暖流は東経 138° 30’線付近を北上し、北緯 41° 付近では北東方向へ向かっていました（図 2）。

道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらもご参照下さい。
https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyou/sokuhou/

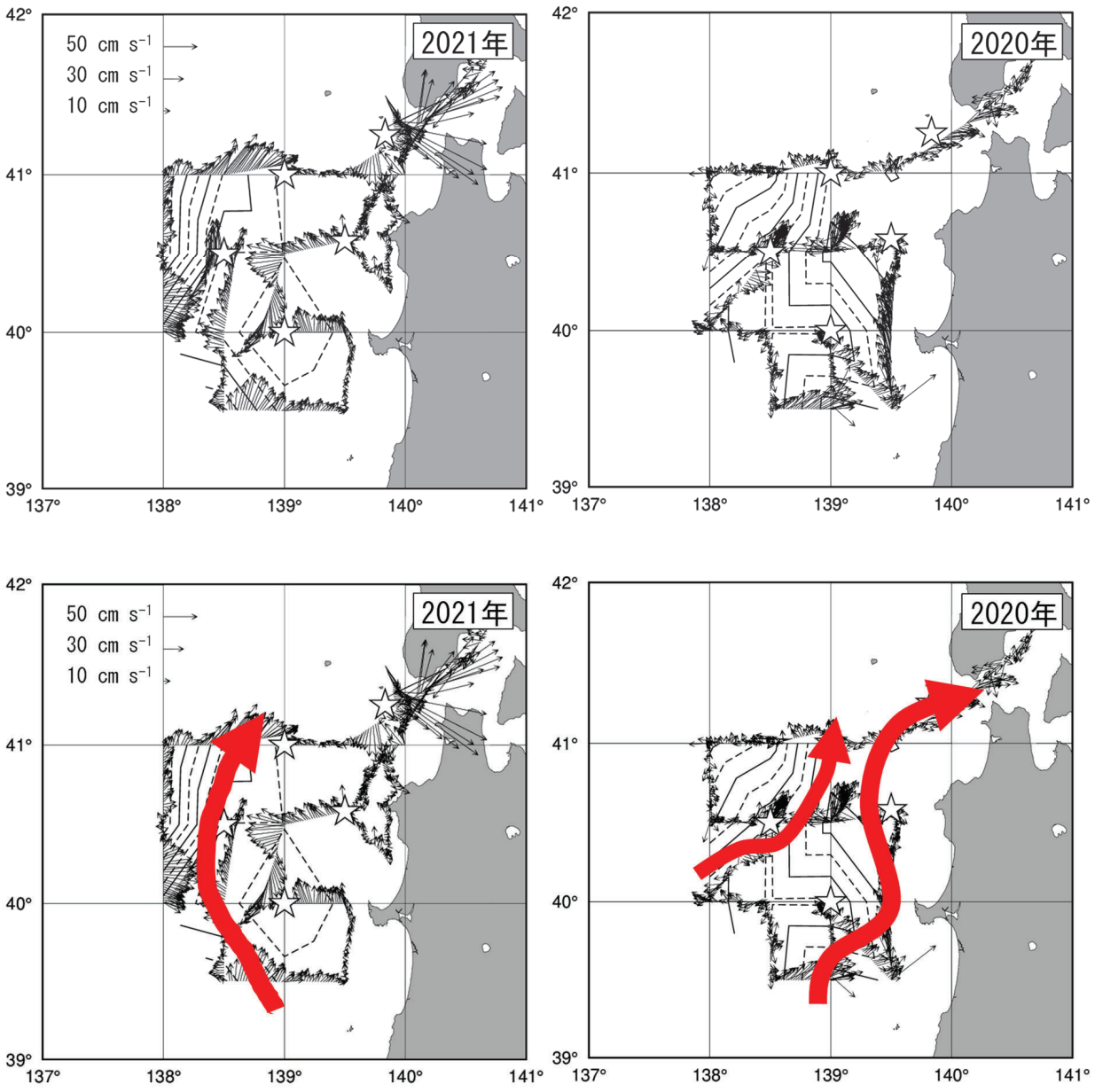

図 2　2021 年（左）と 2020 年（右）の深度 50m の流向流速と等温線図
下段は対馬暖流の模式図を書き加えたもの。☆は漁獲調査点。

3. スルメイカ分布密度（図 1、図 3）

漁獲調査点 5 地点の CPUE（2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たり漁獲尾数）は 0～0.20（昨年 0.03～17.0）の範囲にありました。CPUE が最も高かったのは松前小島近辺の St.21 で CPUE は 0.20（昨年は St.6 で最も高く、CPUE は 17.0）でした。また男鹿半島沖の St.11 以外では、漁獲はあったものの、CPUE は低い値（0.06～0.13）でした。

漁獲調査を行った 5 地点の平均 CPUE は 0.09 で、昨年の 5 地点の平均（3.4）および過去 5 年の平均（5.6）を下回り、2019 年（0.03）に次いで低い値でした。

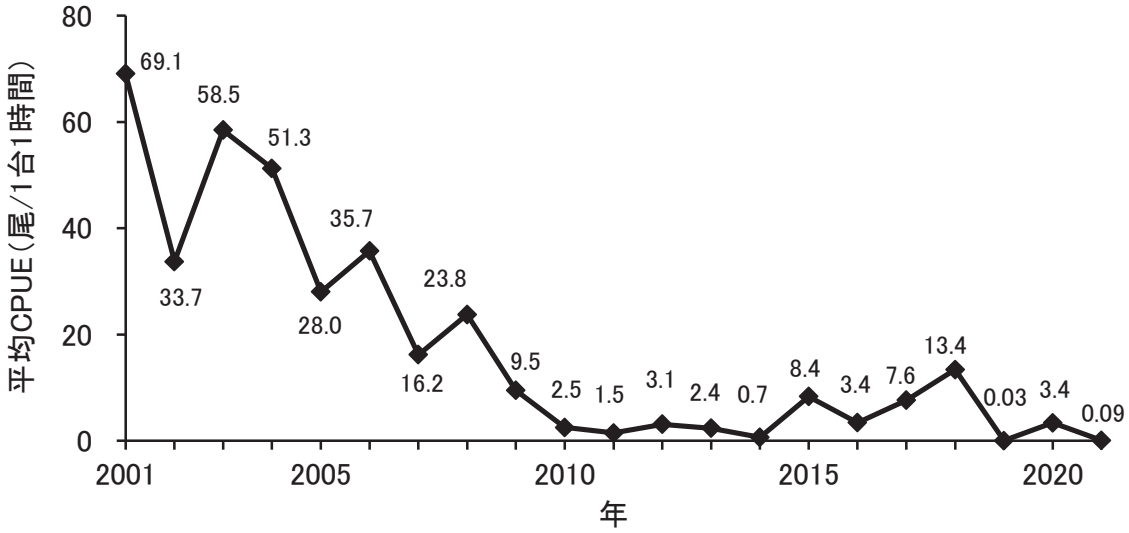

図 3　松前以南 5 地点の平均 CPUE の経年変化

4. スルメイカの大きさ（図 4）

今回の調査で漁獲されたスルメイカの外套長の範囲は 11～15cm（昨年 10～16cm）で、昨年よりも小型の比率が高くなっていました。また、最も多く漁獲されたスルメイカの大きさ（外套長のモード）は昨年と同じで、過去 5 年平均より小さい 14cm でした。

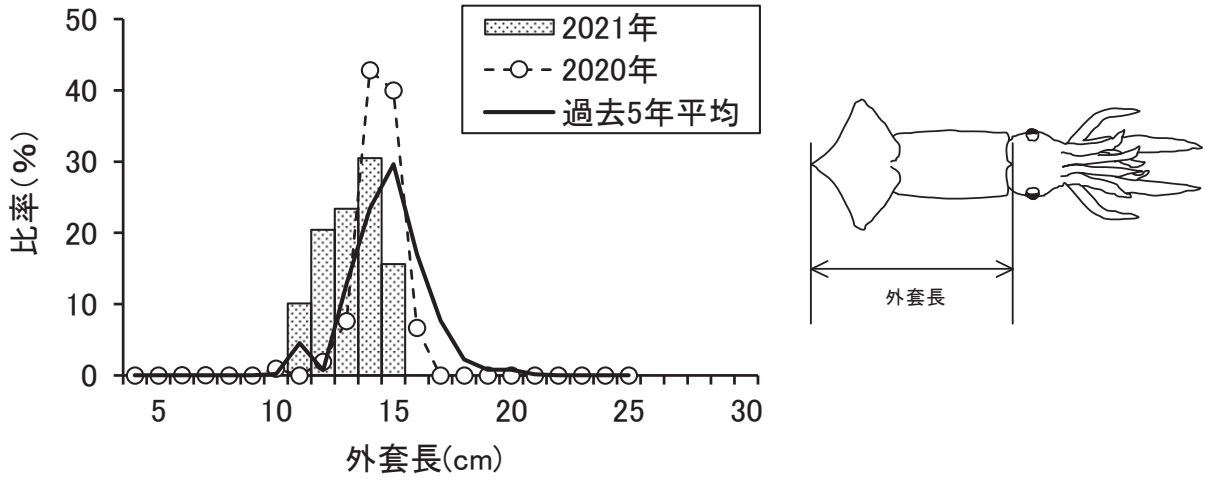

図 4　調査海域全体の外套長組成

（函館水産試験場　調査研究部、TEL：0138-83-2893、FAX：0138-83-2849）